

古道 豊後(肥後)街道

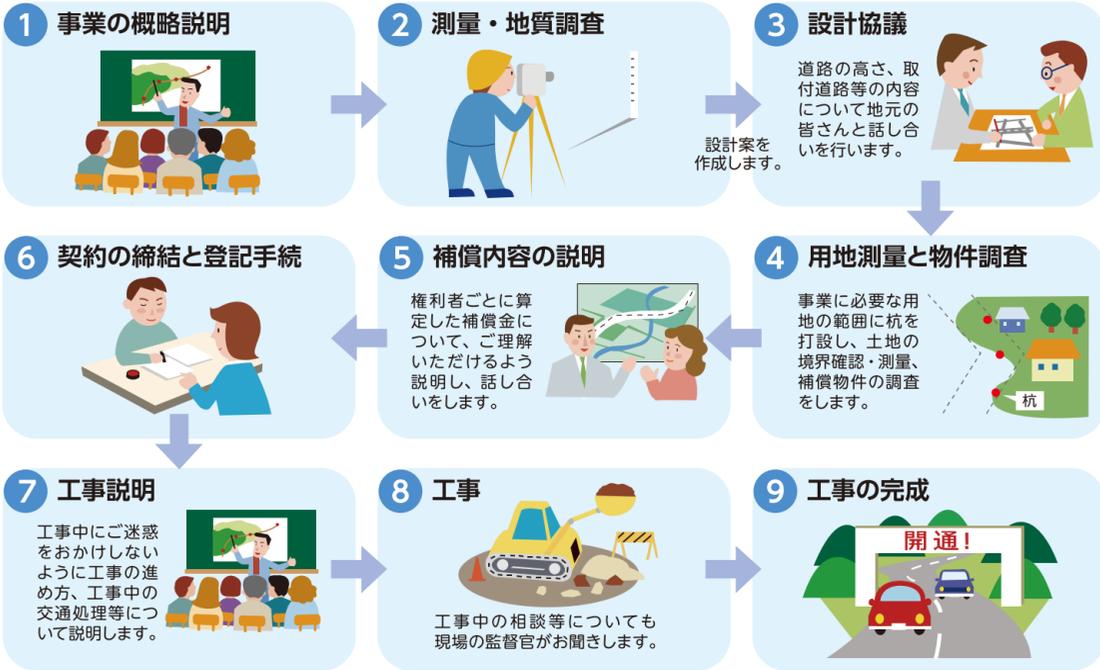
「道」は人と地域を結び 心まで通い合う

豊後(肥後)街道は、熊本城「札の辻」から大津、阿蘇を超え、大分県鶴崎までの31里(124キロ)。加藤清正公によって整備、江戸時代には参勤交代の道として、政治、経済、文化、軍事、年貢納めの道などの重要なルートとして発展した歴史街道。



道路事業の進め方

道路は公共用財産です。地権者の方や地域の方と話し合いながら以下のような流れで事業を進めてまいります。



中九州横断道路の概要

中九州横断道路は、大分市と熊本市を結ぶ延長約120kmの高規格道路として、平成6年12月に計画路線に指定された道路で、大分市～熊本市間の広域交通ネットワークを形成するとともに、沿線地域の産業発展や防災機能の向上等を目的とした事業です。

これまでに、犬飼千歳道路、千歳大野道路、大野竹田道路、北側復旧道路が供用しており、現在、竹田阿蘇道路、滝室坂道路、大津熊本道路(大津西～合志)、大津熊本道路(合志～熊本)について、整備を推進しています。



■お問合せ先

国土交通省 九州地方整備局
佐伯河川国道事務所

〒876-0813 大分県佐伯市長島町4丁目14番14号
TEL: 0972-22-1880(代)
<http://www.qsr.mlit.go.jp/saiki/>

国土交通省 九州地方整備局
熊本河川国道事務所

〒861-8029 熊本市東区西原1丁目12番1号
TEL: 096-382-1111(代)
<http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/>



令和7年3月作成

竹田 くじゅう花園

阿蘇 阿蘇神社

高規格道路 中九州横断道路

竹田阿蘇道路

竹田 白水の滝

阿蘇 雲海

坂梨の町並み



滝室坂石畳

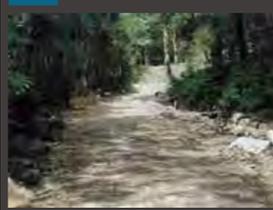


A 二重峠



二重峠(標高683m)は、古代・中世・近世を通じて、政治・経済・文化・軍事・年貢納めの重要なルートでした。古くは平安中期の古代官道、参勤交代の道、西南戦争などに使われました。神話に登場する地名に健甕龍命(弓の名人)が阿蘇カルデラ内の湖水を排水して美田にするため、外輪を蹴破ろうとした二重(ふたえ)や往生岳から弓で石を的に練習した石(まといし)が今でも残っています。

B 滝室坂



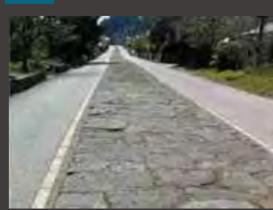
滝室坂は、熊本から滝室坂までは十三里に位置し、加藤清正公(熊本初代藩主)が軍事と交通の重要なルートとして整備。その後、細川藩が参勤交代に利用した豊後街道の最大の難所でした。宿場町坂梨から北外輪山に至る標高差約200m、距離にして3キロの急坂です。この坂を人々から「大阪に坂なし、坂梨に坂有り」と呼ばれていました。また、伊能忠敬も日本地図作成に坂梨宿に止宿しました。

C 境ノ松坂石畳



境ノ松坂石畳は、参勤交代のため整備された、肥後と豊後を結ぶ豊前街道の一部です。蒼蒼とした杉林に囲まれて平均幅約3m、長さ200mの古い石畳の道です。途中鋭角のカーブがあり、大分県境手前、熊本県最後の難関です。石畳をのぼりつめると、かつて肥後と豊後の境に植えられた境の松がありました。開けた視界の先は豊後の国。また、峠の茶屋もありました。

D 今市宿の石畳



今市宿の石畳は、江戸時代の参勤交代路です。石畳は、幅約2メートル、延長660メートルの重要なルートとして整備。途中には、「信玄曲り」と呼ばれるクランク状の曲がり角が設けられ、宿場全体を見通せないよう、防備のための構えがありました。また、曲がり角には火除藪としての竹林が作られて防火にも役立っていました。